

要約版

第8回「市民ふれあいトーク」一庄地区の個性と魅力を伸ばすには―

日 時 平成21年8月26日 18:00～19:30
場 所 庄公民館

《市長挨拶》

皆さん、こんにちは。今日は第8回目の市民ふれあいトークということで、平日の夕方という忙しい中にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

このふれあいトークですが、各支所のある地区に私が伺いまして、その地区の個性と魅力をどのようにしたらもっと伸ばせるか、こういう個性と魅力がうちの地区にはあるんだ、それをもっと全市的にも広げてもらえないだろうか、などを皆さんから教えていただきたい。若しくは、健康というテーマなどで全的に広く皆様からお話を伺いたいという趣旨で行なっています。

今日はこの庄地区で、皆様から市政に関するいろいろなご意見をいただきたいと思って参りました。一時間半ほどの時間ですが、ご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

《市長》

最初に、私が庄地区について思っていることをお話をさせていただければと思います。庄地区は、何と言っても倉敷で一番、日本の中でも古い王墓の丘の史跡公園をはじめ楯築遺跡など、弥生時代からの大変多くの古墳が残っている歴史の町だと思っています。そこに新しい団地があり、山陽新幹線、旧2号線、新しい町もある。それから、私の大きなイメージとしては農作物、スイカをはじめとする稲作、そして以前からだと、今は少なくなっておりますがイグサも産地であるし、そしてマスカットが現在盛んだと思います。

そして、私が聞く中では、庄地区は非常に住みやすい町だと伺っていますが、住んでいらっしゃる皆様方はどう思われているのかと思っていますので、今日、自分の住んでいる所はこういうものだ、もしくは遺跡の事について、もっとこういうふうにしたらいんじゃないか、それから農業についてももっとこういうふうにはできないだろうかなど、ざっくばらんに教えていただければと思います。

それでは、手を挙げていただいて、私から指名させていただきますのでお話をいただければと思います。

《参加者 A》

ありがとうございます。市長とお話できるということで、大変緊張しております。

庄の子ども会の会員数が子どもたち、親御さん含めて約6百人います。この十年間で1千人以上いた子どもたちが今6百数十人位になってます。

そんな中、子ども会に入会する子どもたちの親御さんの中で、入会するときのお金が払えない、だから入れないっていう意見がございます。

総社市・高梁・真庭市など、ご存知のとおり小学校を卒業するまで医療費がかかりません。倉敷市は総社市、高梁市、真庭市とは違い医療費が掛かります。今までの歴代の市長、

多数いらっしゃる市議会議員の皆さんがすごい無駄遣いをして、それが原因で倉敷市だけが医療費が掛かる状況になっているのかどうかを教えてくださいたいんです。

魅力を伸ばすには、子ども達が色々なことを学ぶためには、子ども会は大変有意義なものです。その中で払うお金がないから入れないというのは非常に悲しいことだと思います。是非そのことを教えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

《市長》

ありがとうございます。子どもさんの医療費についてだと思います。確かに総社、真庭などは6年生まで無料だと思いますが、岡山市は倉敷と一緒になんです。倉敷は、私が市長になりましてから6年生まで入院の子どもさんの医療費について、今年度から無料にしております。6年生までの通院についてまだ実現できていませんが、私の任期中に進めていきたいと思っています。入院というのは、どなたでもお医者さんから言われると避けられないことで、一番大変な経費ですので、これは岡山よりも進んでいます。

岡山県内の状況から言いますと、人口の多い岡山・倉敷は、無料化するといっても非常に多くの金額が掛かります。約10億近くのお金が掛かることでして、一度にはお金の捻出が難しいということで、まずは入院費の無料化からしていきます。全国的に見ても、人口の多いところは一度に無料化することは難しい現状だと思います。

それは、非常に多くのお金が掛かるからです。真庭市については、子どもさんの比率が都市部より少ないということで、医療費無料化の予算についても少なく済みます。小さな市では、子どもさんが医療費無料になって非常に手厚くされているところが多いんですが、多くの都市部については一挙にはできない状況になっているのが現状です。

医療費の無料化と子ども会の入会金が、直接リンクになっているかは疑問ですが、子ども会については、私も非常に重要な組織だと思っています。子どもさんが少なくなっている中、子ども会で子ども同士の繋がりができたらと思います。

子どもさんが少なくなっていることについて、倉敷市では去年から子どもが増えていきます。私が市長になったときの公約の1つですが、妊婦検診の14回までの無料化を、昨年9月から導入しました。

それまでは、全国平均が5回で倉敷も平均でしたが、現在は全国の中でトップです。それによって、今までは年間に倉敷市内で子どもさんが4700人ぐらい親子手帳の申請をしていたんですが、昨年の9月から半年間この施策を行いまして、5000人ほどの方から親子手帳の申請を出していただきました。約300人ほど例年より増えて、すべてがこの妊婦検診の成果かどうか分かりませんが、倉敷としては子どもさんの施策にしっかり力を入れているというのが少しずつ浸透してきているかと思っています。

《参加者 B》

今子どもさんの話が出たんですけど、少子高齢化になり庄も例外ではないです。庄では高齢者と子どもさんたちを守ってあげるということを大切にしたいと思っています。そういった観点から、まずは新学期が始まるということで、子どもたちが安心して登下校できる通学路の整備や確保。一度現地を観察してもらえば分かるんですけど、場所によって

は大きな車が通ると子ども達が小さくなってそこを通っているところがあります。われわれの地域では、安全パトロールや登下校は地域で一緒に行くなど努力はしておりますけれど、やはり地域では限界ですので、行政からも通学路を見ていただいて整備していただくというフォローを。子どもたちが安心して住める庄という地域にしていきたいというお願いです。

それから、庄地区にも非常に多くの高齢者がおられるので、引きこもりの高齢者にイベントや催し物をして家から出ていただく活動を、高齢者の方を活性化させていただくという意味でも、行政が補助金など手助けをしていただければ、ありがたいなということ。年寄りや子どもさんたちが、ほんとうに庄に住んでよかったなという町にしていきたいと考えておりますので、行政でもフォローをお願いします。

《市長》

はい、頑張りたいと思っているんですが、地区でこういうことをやっているなどありませんか。子どもの見回りをしていただいて大変ありがたいと思うんですけども、安全パトロールのお話の中に引きこもりの年配の方とか、会社を辞めてからどういうふうにしたらいかなど、やっているようなことがあったら。

《参加者 B》

特に団塊の世代がどんどん地域に出てこられているから、そういう人たちに何かクラブに入っていただくなど、色々やってます。市からしてくださっているのは「ふれあいサロン」ですね。

「ふれあいサロン」の人もある程度いますが、地域が限定されているので、それを広めるとか。それから、高齢者の方は仕事が今ないから、子どもさんについて安全パトロールや青空パトロールなどを、そういう外に出て活動するような。もちろん地区、地区での老人会の会合は持ってますよ。それは現にやってます。

《市長》

分かりました、ありがとうございます。少子高齢化ということで、さきほどの A さんのお話もありましたが、子どもさんを大切にすることと、年配の皆さんを大切にすることですね。家の中にいらっしゃるだけでなく、外へ出て町のことをぜひ一緒にやっていただきたいということが私の大きな願いですが、お話があったように団塊の世代の皆さんたちがこれから多く退職になられるので、市では公民館講座を今までと違う方向に進む考えをする必要があると思っています。

多くの団塊の世代の方が退職されて、これまであまり地域活動をされてなくて、会社へずっといらっしゃったという方は、どういうきっかけがあって地域へ参加するか分からないと思いますので。

今のところ、市ではシニアリーダー養成講座などを新しく始めたり、市民活動の情報を積極的に紹介したり、去年の後半ぐらいから始めたんですが、まだ加速していく必要があると思っています。

それから、「ふれあいサロン」につきましては、市のほうから補助金が出ますので、もっと地域でしていきたいというところがあったら、お話をさせていただければと思います。「ふ

れあいサロン」というのは、家にずっといらっしゃる年配の方が、出てきやすい機会かと思しますので、積極的に宣伝したいと思います。

子どもさんの通学路はしっかり見るようにいたします。ありがとうございます。

《参加者 C》

先ほどおっしゃってました小学校のことですが、非常に庄は協力的にやっていただいていると学校から評価をいただいています。全体的に協力的な雰囲気があるのかなと思います。

商工会から一言申し上げさせていただきますと、商工会というよりも営業者、非常に逼迫しています。表に出ていませんけれども、それに対する相談というのが非常に増えておりまして、職員も表に見えないところで非常に頑張ってますし、それに対するフォローというのが、今、県からも市からも補助金が減ってるんです。ところが仕事量は非常に増えてます。この機会にそういう意味で精査をしていただくといいと思ってます。

この地区についての特徴ですけれど、まず一番に10分以内にインターチェンジが3つあるようなところがめったにない。早島、倉敷、総社、10分以内に。これだけのインターチェンジがあるところは、おそらく日本でも少ないのではないかと。

なおかつ、公共交通機関がJRということで自然発生的に流通センターの車も増えてます。同時にそのために大型のトラックが非常に増えてます。

早島からこっち来るのは非常に危険です。トラックがずっと数珠つなぎに並んで入れない。そこに、通学の子どもさんや自転車が通っているという状況です。

また、ここは非常に恵まれた土地でありながら、それに対する行政的取り組みが非常に遅れているのではないかと思います。

農地を駐車場にしようと思っても農振で出来ないんです。こんなにいい土地がいっぱいありながらも、農業以外できない。さきほど市長は、緑が多くて稲作があってマスカットがあってイグサがある。確かにそうですけど、現実はどういう方がそういうことをなさっていますか。おそらく70代の方ですよ。

それよりもっと活用的な方法、例えばJRの駅が、庭瀬と中庄の間にもう1個あってもいいと思います。そうすると流通センターもよくなりますし。絶対アクセスが見違えるようによくなると思います。そういうマスタープランがおそらくできていない、作る必要があるのではないかと思います。

健康という面では、ぜひとも自転車道の整備。いわゆる環境問題並びに安全問題、健康問題、全て自転車というのがキーポイントになるかと思えます。倉敷はちょうど平坦ですし、道路の整備、自転車道並びにそれに対する安全確保を。自動車も含めて考えてもいいのではと思っています。よろしくお願いします。

《市長》

ありがとうございます。一度に全部自転車道というのは、難しいと思います。まずはモデル地区など。国も環境の面で自転車などを注目した施策を始めつつあるので、それとタイアップできないかと思いましたが。あまり答えになってないようですが、インターチェンジが10分以内に3つあるということは、よく頭に入りました。ありがとうございます。

《参加者 D》

今のように、行政、経済こういう環境問題、非常に重要だと思いますが、ちょっと前に、市長さんが公民館講座のお話をなさいました。

一昨年、東京や大阪は盛んですが、岡山市内のたくさんの公民館が「公民館は地域の学校だ」というテーマで、各公民館で地域のふれあいのために皆で話し合い講座をして。実は何の話かという、いわゆる人材発掘ということで公民館の中にそういう会を開いて、60歳で定年をして、今まで色んな仕事をしてきたお話でもいい、あるいは趣味、特技でいいんですね。

倉敷ライフパークでも、人の前で話なんかとても出来ないっていう、おじいさんが非常に魅力的な方なんです。なので一般の人が、今までの社会活動、企業でやった話、あるいは趣味やいろんな陶芸でも写真でも料理でも菜園でも、そういう話を10分、15分ぐらい皆の前でお話すると。

本当はみなさん、皆の前でお話したいと思ってるんですね。ところが、みんなができない。話し方が分からなかったら私も応援しますので。そういう公民館講座に興味を持っています。

《市長》

ありがとうございます。確かに公民館講座で自分の趣味を話すというのはないですね。でも D さんが言ってくださったように、自分は盆栽などすごい趣味を持ってるんだ、技術を持ってるんだ、世界を数十カ国旅したという写真を見せたいんだなど、話したい方もいらっしゃるかもしれないので、そういうことによって人の繋がりができていく、今のいいアイデアだなと思いました。

《参加者 D》

聞いている人もそうですが、お話している人も脳の活性化になって、いわゆる認知症の予防にもなる。聞くほうもですけど、皆の前で話すことは、教師なら当たり前ですけど、一般の人でも結構いろんな話ができるんですね。

《市長》

ありがとうございます。来年の公民館講座開設に向けて今年の夏ぐらいから、色々な改革点を話しています、その時今日のお話も申し上げたいと思います。

今後、公民館講座について市民アンケートをやりたいと思っています。市民モニターになっていただいて、どういう公民館講座に興味がある、こういうふうにやったらいいんじゃないか、参加してみてもう良かった、などを返事してもらい来年度から改革ができればと思っています。今おっしゃっていただいたような観点からの改革も、検討委員会に話してみたいと思いますし、そうゆう趣味を持った方が話してくれたら、私も楽しいだろうと思います。

講座の話が出たんですが、一つ私からお伺いしたいです。皆さんの中で、この近くの大学の講座やイベントなどに参加されたことがある方どれくらいいらっしゃいますか。

・・・はい、ありがとうございます。だいたい4割ぐらいですね。倉敷市には岡山県内のどこよりも多く大学があります。玉島の職業能力開発大学校も入れれば、倉敷市内に私立・公立含めて、10校の大学・短期大学があります。

そこで、大学のことをもっと知ってもらいたいですし、手を挙げていただいたように多くの方が興味があって、実際に行かれてるのではと思います。だから、Dさんに言っていたように、大学の公開講座をみんなに知ってもらえるように周知することが必要と思っていますが、そのことについて何か意見がある方がいらっしゃいませんか。

《参加者 E》

私は川大には色んな高度治療があるので宝物だと思っていますが、公開講座もとても良い物があまして、何回か参加しますと、その後学園から個人宛に案内が来るようになります。それは学園の努力だと思いますが、それに対して市でも応援があればいいと思ってましたら、公開講座の一覧が8月号に挟んであまして、非常にうれしく思いました。これからあとも続けてあればいいと、HP見ない人も大勢いますので、続けていただきたいと思っています。

もう1つ、私は7、8年前に東京の上野の博物館に行きましたら、榑築遺跡の亀石というのが目に付きました。説明を見ますと、「これは亀石のレプリカで本物は倉敷市の榑築遺跡の収蔵庫の中にあります」と書いてありました。それから弥生土器も寄贈者の名前と一緒に2点並べてありました。

そんなのを見まして、私は国立博物館に展示するぐらい学術的価値がある物とは知りませんでしたので、びっくりいたしました。新幹線ができましたとき、基礎工事の時に土器が発掘されたと聞いております。それを考えますと庄地区は弥生時代から古い人が住んでたところで、ここの公民館を建て替える前の建物にも、土器が展示されておりました。建て替えにあたって、埋蔵文化財センターに移されたと聞いております。もし復元ができていた物があったら、展示して講演会やディスカッションなどができたらと思っています。

私の思い付きですけど、そこでDさんがおっしゃたように専門家の話、発掘のエピソード、復元の苦労話など専門のお話を。次に、市の中にはお話したい方や趣味の達人もおられると思いますので、そういう方の講演会ができればと、どうでしょうか。

《市長》

ありがとうございます。最初に公開講座のことを話したいと思います。市内の大学の講座を、なるべく広報に載せたいと思ひまして、手広くやってはいるんです。そこで広報のことについて伺いたいんですが、毎月配られています「広報くらしき」を割とよく読んでいるという人、手を挙げてくれませんか。

はい、ありがとうございます。実は、先ほど言いました市民モニターのアンケート第1回目、どうやって市の情報を入手していますかというものだったんです。何を一番よく見ますかというアンケートでは、やはり手を挙げていただいたぐらいの比率で、ほとんどの人が「広報くらしき」をよく見ているということでした。ですので、もっとしっかりしないといけないと思っています。たくさん載せたくて字が小さくて見難いと思うのですが、「広報くらしき」をもっと充実させていきたいと思っています。

その中に今ありました公開講座。これからの世代の皆さんに対して、是非自分のことを

他の方にも教えていただきたいし、今ある大学の公開講座については、もちろんこの庄地区では川大が一番近いですが、作陽大学では音楽の公開講座を、保育の講座は市立短期大学でやっています。芸術については芸科大もあります。

少し場所は遠いですが、市内のいろんな場所で自分なりに勉強・向上ができる環境にあるんではないかと思います。それを皆さんに分かりやすくお伝えをすることが必要だと思います。公開講座は、しっかり頑張りたいと思いますし、今は公民館講座という形でしているものも、他のいい公開講座と組み合わせて、例えば市民大学のような講座ができればいいなどと検討している状況です。

それでは、今お話のありました、弥生時代の古墳について皆さん意見がありませんか。

《参加者 F》

私は広報を隅から隅まで、繰り返し繰り返し家族で見えております。さっき大学のことを言われました。大学ではないですけど、私が参加しているのは病院とNPOがタイアップしている料理教室です。大体2ヶ月に1回ぐらいですかね。最初はホームドクターにFさん、どうですかと声をかけられて。一番最初に行った時は女性ばかりです。ちょっとこれは、まずいなと思いましたが、毎回参加してると結構おもしろいなど。

ダイエットしないといけなことがあって、朝ジョギングしたり、ウォーキングしたり、肥満体にならないように野菜を食べて。3年ぐらীগんばったんですけど。

市長が今年ゴーヤと朝顔を、市役所でくださりまして、いい機会になったんです。最初は、そんな植物育てたこともないけど、日よけにもなると軽い気持ちで始めたんです。意外に家族に評判がよくて、どんどん広がって、家の庭はほとんど家庭菜園です。せつかく作るだけでなく、料理する。そういうのがいいんじゃないかと。

だから、大学は敷居が高いと思われる人もいると思うので、大学にこだわらず公民館など、友達に声を掛けて参加する機会があればという意見なんで、参考にしていただければと思います。

《市長》

大学の公開講座をよく広報すること、今ある公民館講座のいい講座をもっと伸ばすことの両方をしっかりやりたいと思います。

食べ物、運動など、自分のことに気をつけることによって、年をとっても皆さんいつも元気でいられるのではと思うんです。

食べ物や人と交わっていくことになるので、Dさんが言ってくださったように、自分の頭、手、足を使うわけですから、より健康で長生きにつながると思います。公民館は学習という意味もありますが、これからの公民館活動は大きな意味で市民の皆さんの健康に繋がるようにできたらいいと思います。ありがとうございます。

Eさんの遺跡のお話なんですけど、この中で庄新町の遺跡の近くに住んでらっしゃる方・・・結構いらっしゃいますね。日頃、遺跡のことをどういうふうに思っているのか、お伺いできるとありがたいと思うんですけど、何か言っていただけませんかでしょうか。

《参加者 G》

本当に小さくてやっと歩く子どもを連れて遺跡に登れるところに住んでいますので、どんぐり拾いとか散歩をよくするんです。

ストーンサークルなど神秘的なところで子ども達もとても喜ぶんですが、立て看板の解説文がとても難しくて親の私が読んでも何を書いているのだろうという感じで、子どもにも一部しか説明できません。せっかくの遺産ですから、もっと親も知りたいし、子どもにも教えてやりたいなとすごく感じています。

《市長》

楯築遺跡の見学など、人が結構来ていることはありますか。

《参加者 G》

年に一度二度ぐらい観光のバスを見たり、個人的に遺跡に来ている方を時々見ます。

《市長》

そうですね。やはり上野の博物館にあるぐらいの物ですから、その道の人にとってはストーンサークルとか、本当にすごいものだと思います。私もそういう面での歴史の顔の町庄地区というのができればなと思います。ありがとうございます。

他に遺跡のことでお話いただける方。

《参加者 H》

私が中学校へ在学中の時には、中学校の廊下に弥生土器がズラッとありました。現在それがどこへどうなったか私も学校へ行ってないから分からないんですが。

《市長》

多くは埋蔵文化財センターにいらっていると思いますが、以前は並んでたのですね。

《参加者 H》

弥生土器が。完璧に近い物も目にしています。新幹線一つとっても、なぜあれだけのスパンにしたかという話を聞いてますが、あれを全部普通の工事にすると絶対に期間内に工事が完了しないということで、あれだけのスパンにしてスポイ德的に工事をしているということを知っています。

《市長》

H さんから以前は中学校の廊下にあったと聞いてびっくりしました。倉敷市の中ではもちろん吉備真備の歴史も古いですが、庄は何ととっても弥生時代ですから日本の中でも一番古い方の素晴らしい物だと私は思っています。

特に楯築遺跡をはじめとする遺跡群はすごい物だと思っていて、さっき G さんが言ってくださったように、バスで観光に来る人もいらっしゃるぐらいなので、これからは遺跡に対して興味のある人が、時間ができればもっと増えると思うんで、そういう人たちにもっと来てもらえるような、そして来たら読んで分かりやすいよう検討してみたいと思います。ありがとうございます。私は非常に歴史が好きなんですが、遺跡がすごく大切だと思います。

《参加者 I》

この地域は本庁に遠いので、こういう会を設けていただいて感謝しています。

私は引っ越してきたとき、「うわあ、大変なところに来た。不便なところに。」と思ったんです。でもその当時は、バスが15分に1回ぐらいあり、周りも田園地帯で環境もよく住みやすい、子どもを育てるにはいいところだったと思います。どんどん宅地化してきて、その川を通過して来ましたが、みな三面張りですね、でもけなげに魚が泳いでいるのを見て、この環境を私たちの子どもの頃のように戻るのは無理にしても、三面張りをやめて、これ以上環境を汚してほしくない思いがすごくありまして。

これから高齢化になり皆さん車乗られますけど、いずれは乗れなくなり、私なんか乗らない人間は、本当にどんどん不便になりましてね、公共を利用しようにも、先ほどの。

いずれ小さい規模でいいんですが、どこの庁舎にもあるコミュニティバスを貸し出してもらうような、長い目で庄地区を見て町づくりを考えていただきたい。それは、市長にお願いするだけじゃなくて、私たちが考えていかないと思うんですが、やっぱり町づくりは皆の手で、本当に考えていかないと、もうそれはすぐ目の前にせまっていると思います。

こういう場で、地域の人とお話できる時間って案外無いんです。私たち後から来た人間はなかなかふれあいも少ないので、こういう場で皆さんのいろんな意見を聞けてすごくいいと思っておりますので、また来年こういう機会をぜひ作ってください。

《市長》

ありがとうございます。バスの便が減ってきていることだと思います。これは市内全域でバスに乗る人が少なくなることによって、バス会社がバスを減らさないといけない状況になると。国や県と一緒に、市も補助金を出して少しでも延長が可能ないようにしてるんですが、ある一定以下に乗る方がいなくなると、便を減らさないといけなくなって、通告が来ることになっています。

この中で、庄新町の乗合タクシーに乗られたことがある方はいらっしゃいますか。…ありがとうございます。庄地区では、庄新町の団地が乗合タクシーを少し前からされていらっしゃるということを伺っています。それを、どういうふうに皆さんが思われているかを言っていただければありがたいと思います。

以前、倉敷市で交通局がありました。しかし、バスが発達してきて全国的に交通局というのは非常に少なくなっています。減少したバスに対して市が代わりにできるわけではないので、そうすると乗合タクシーもしくはその地域で運行する物に市が補助を出すことが、だいたいの方ではと思っています。

市内各地でバスが減少し不便だというお話があり、今ある乗合タクシーの制度について、全市的にどういうふうに考え、仕組みを広げることができるかしっかり取り組まないといけないと思っています。どうでしょうか庄地区の乗合タクシーなどについて、何か発言していただけますか。

《参加者J》

タクシーの運営委員会に入っているんですが、やっぱり高齢者の方には理解が行き届いてないところがあって、本当は高齢者の方が病院や駅へ行ったりするのにいいかということで立ち上げたものですが、そういう方々がまだいいように使っていない。

1回使えば「こんな簡単な」と思うんですが、それを説明するからと言っても出てきて

いただけなかったり、全員にまだ理解がないのがちょっと残念です。バスが今年から少なくなると庄新町は今1日に2本ぐらいしかないの、ふれあいタクシーに頼らなくてはいけない時代になってきているんです。去年一昨年から言うと、利用者が少しずつは増えてきてはいるんですが、もう少し需要が増えないと経済的に難しいと思ってるんです。

利用が少ないと金銭的な問題で、時間数や車の配車数が減ったりするので余計に不便になってくるといふ不安もあるんです。だから皆さんがもっと理解して、庄新町でのふれあいタクシーが活発にできたら、上東、矢部などたくさんの方が利用できていいと思っています。

それと盾築遺跡のことですが、八区の上に倉庫ができていますが、いつも鍵が閉まって入ることができません。

《市長》

そこには行ったことがないんですが、すぐ近くにあるんですか。

《参加者 J》

楯築遺跡の一番端の崖のようなところにあると思います。外から覗くことはできますが、中に入ることはできないので、公開したら整理や整備ができて観光客やもっとたくさんの方が来ていただけて、遺跡もみんなが見ることができると思ってる（※注1 最終頁参照）ところです。

《市長》

ありがとうございます。八区の倉庫について調べてみます。多くは埋蔵文化財センターだと思いますが、そこにずっとしまっておけば、撤去などもの必要もあるかもしれません。

ふれあいタクシー庄新町について、地域主導で始めてくださってますが、やっぱり伸び悩んでいるということなんですね。町内会での広報は結構されているけれども、そんな感じと。

《参加者 J》

そうですね、チラシを入れたり、タクシーの無料利用券を入れたりしているんですけど、全員がまだ乗っていないと思うんです。自分に車がある人は使いませんから、必要な方に利用していただくのが一番いいと思うんですけど、そういった方がもっと利用していただければ、活性化すると思っています。

《市長》

広報活動などを市で手伝えることがあればと思います。おっしゃってくださったように1回乗っていただいて、乗合タクシーがいいものだと分かってもらって、他の地区にも広がってほしいなと思ってます。どうもありがとうございます。

《参加者 K》

県北ではかなり乗合タクシーは盛んになってるのは事実。70過ぎて80歳以上で免許を持っていて逆走する老人がいるということで、この庄新町で立ち上げる時、地域のアンケートなどは、チェックしないのですか？もったいないじゃないですか。してるのに駄目だったんですか？じゃあ、採算あわないですね。私は使いたいんですけどね。

《参加者 L》

乗合タクシーのこととか私ちょっと提案していたことなんですけど、岡山に行くんじゃないかって、中庄の駅周辺をピストンしたり、立て看板を作ってその場所で手を挙げていたら乗れますよ、などを増やしていただいたらもっと利用されると思うんですよ。お年寄りには、運転できない方もたくさんおられますので。

庄新町だけという認識しかしていない。それを広げてどこでも乗れるようにしていただけたら、もっと利用できると思うんです。

《市長》

そうですね。利用者の方が多くなってきて、庄新町の料金があると思うんですけど、そこからある程度定期的になれば、他の地区の方も途中で料金を払って乗ることができれば、一番理想だとは思いますが。そういうことを目指していきたいと思います。

《参加者 M》

今の交通体系について総合的な観点からお話したいと思います。今まで見ていると、ある場所からある場所へただ移動するだけというのでは、特定の人しか使えない。ですから、複数の場所、例えば病院とかスーパーとか色んなところに行ける人たちが、頻度よく、例えば15分とか20分とか30分とか経てば、循環型の多目的な場所で転々とでき、複数で乗れるような設定の仕方が大事かと思います。倉敷は特にそういうことが言えるかと思っています。

他の地区については、倉敷や玉島もそうですが、駅を中心にしたりして、大きく言えば放射状に運行してるだけなんです。いったん放射状に出るんだけど、別の地区を通ったり、また、全く逆のルートをとというような形態の路線、時間を作るというのがあっていいと思います。

そういうふうな複数目的で頻度よく利用する循環路線バスであれば。一番大事なものは、とにかく短時間でも少しでもできる、20分でも30分でも病院などに寄って、その時に時間が経っても自分の家に戻れるような使い勝手にすれば、かなり違うと思うんです。

《市長》

今言っていたのは、私が一番理想だと思っていることです。ところが倉敷市の実情として、今から2年半ぐらい前に循環バスがないということで、商工会議所と組んで、イオン倉敷、浜の茶屋、老松、中央病院などを回るルートで半年（※注2 最終頁参照）ほどやってみたんですが、1つのバスに約1.7人という乗車率だったんです。中央病院が入っている区域で、倉敷の町中だったんですが、その時代によって変わるのかもしれませんが、一番は広報活動なのかと思います。

《参加者 M》

生活圏域と商業その他の社会インフラとの連携が一致しているかどうかなんですよね。

《市長》

私も民間バスがメインの所と、市が補助をするふれあいタクシーというのは、違う観点が必要だと思います。ただ実際に乗っていただける方が少ないことが、一番の問題だと思います。

《参加者 N》

先日NHKでやっていて、もしかしたらこの中で見られた方がおられると思いますけど、この件について、テレビで放映していました。

ボランティアの方が商工会に連絡すれば、商工会からボランティアを募って地域社会に貢献する。

これからですね、すべて行政で物事をしようと思っても、私は出来ないと思うんですよ、むしろいかに、今一番大事なのはそういうのをいかに安上がりで民間の方の力を借りることによって、やれたら。それで完全にペイしてるそうです。この仕組みができるか、できんか、生き残るか生き残らんかの瀬戸際だなと私は考えます。現実的にそれがああるんです。どっかの市でやってる、テレビで見た話ですけど。

そういう仕組みづくりを公共化して、それを担保する。倉敷は日常的な費用は発生しない、というふうな。そういう方っていうのは結構おられるんじゃないかな。

《市長》

なるほど。例えばボランティアで自分はガソリン代だけあったらいいという時は、携帯電話に登録しておいて。

《参加者 N》

そこで連絡して、じゃあその方に頼んでみましょうかと。

《参加者 O》

私もその件、テレビで見たんですけど、これをやってたのは実際に小さな村とか小さな町なんです。先ほどの方が言われましたけど、要するに仕組みを作っている。どういう仕組みか簡単に言うと、病院とそれからスーパー。大病院はそれに対応できないそうです。大スーパーでなくて、小さなスーパーと小さな病院で。毎日は無理ですけど1週間に1回、曜日を決めて、ボランティアの人がそこへお迎えにいったらスーパーに連れて行けばスーパーも売り上げになるんです。それをボランティアが全部仲介して、病院と約束して、患者を連れて行きますと。

そういうことを市長が議会に持ってかえられて、こういう案がありますがどうですかと市長のリーダーのもとにね、そういうことが実際可能かどうか。

《参加者 P》

先ほどの倉敷駅の周辺で何年前かバスで右回り、左回りをしていたと聞いたんですけど、今でも走ってるんですか。

《市長》

いや、今はもう走ってないです。国のほうのですね、モデル事業ということで、市でも比較的数字が多いと思われるところで、循環バスを走らせてみて、どういう結果が出るかというのをしてみるっていう事業だったんです。それでさっきのような結果だということで、半年位（※注2 最終ページ参照）したものでした。

《参加者 P》

それと、先ほど言われました、中庄の駅のほうへ、東から西へピストンでいけるような

システムを、中庄駅から交通機関を利用して、岡山に行ったりとか倉敷とか、そういうシステムにできたらいいなど。うちの娘が公園のところの急な坂を自転車で下りて倒れたことがあるんです。小学校通りのところは緩やかなんですけど、近くをすぐまわって下ると、急で自転車はハンドルとられてちょっと転んだことがあるんで。

バスの便は、さっき庄新町は一日に 2 本しかなく、だんだん少なくなっているということなので、中庄駅のほうへ東から西へ行ったら、バスに乗れるというシステムを作っていたら、ありがたいと思います。

《参加者Q》

先ほどからアクセスの関係で、かなり活発なご意見がなされていたと思います。おっしゃったように矢部というところは、山を1つ越えた向こう側にありまして、ほとんどの生活圏は岡山市にあります。駅にしても備中高松駅があり、総社に行くか、岡山に行くかということで、倉敷のほうには全く用事がないといえますか、アクセスすることがなかなかできないので困っています。今のことにしまして、是非矢部地区もその中に加えていただくようお願いいたします。

それからもう一件は、選挙のことですが、矢部の地区は庄新町公民館へ投票に行くことになっておりまして、我が家から約 1200~1300 メートルぐらいあり、当然車で行くことになりませんが、この近くには駐車場がございません。当然、道路に止めて投票を済ましてそれから帰るというわけですが、幸いそのすぐそばに公園がございまして、せめて投票の当日ぐらいは駐車場として開放していただければ、というように考えております。公園のスタッフと選管の話し合いができればなんとかできるんじゃないかと思っています。

それから期日前投票は、庄地区は本庁まで行かないと出来ないんです。矢部地区から行って帰るには時間と経費が掛かるというようなことがありまして、どうしても投票率が下がると思います。是非庄支所でも期日前投票ができるように、9時から4時までの勤務時間中だけでもよろしいので。

岡山市の場合ですと、近くの高松支所、足守支所、一宮支所すべて期日前投票できるようになってます。よろしく申し上げます。

《市長》

はい、ありがとうございます。いずれも非常に難しい観点から言っていたという感じですが。バスや、公園について。公園の中には、車を止められないんです。庄新町の公民館に駐車場が少ないというのは確かに問題だと思います。でも市で公園の中に車を止めていいと言えないことが公園法で決まっています。

期日前投票について、庄支所では出来なくて高松、足守ではできることについてはよく調べたいと思います。

やはり、今日皆さんのお話の中では、足の問題ですね、コミュニティバス、ふれあいタクシーなど。バスが少なくなるというのは、大きな課題だと思います。ただ、実施しても乗ってくださる方が少ないというのも、また1つの大きな課題だとよく分かりました。

特に、庄地区は地域が広いと思いますので、いい方法での解決ができないかと今日は思った次第です。

《参加者 R》

倉敷市は、三つの大きな市が合併して、大きく一つになっている。水島は水島のみなど祭り、倉敷は天領祭り、玉島は玉島でやっている、これを庄地区の問題ではないかもしれませんが、全部で1つの行事をやると。岡山市みたいに、桃太郎祭りみたいに1つの行事にするという方法はないだろうか。

それと、来年の秋には岡山で全国の文化祭、国民文化祭があります。来月にも岡山市の天満屋で岡山市の花道展がある。けれどもこれもまた、児島は児島、玉島は玉島、倉敷地区は倉敷地区でやってる。これを1つにまとめれば、会場的な問題があるかも分かりませんが、いいのではないかと思います。

《市長》

来年の国民文化祭の開催で、市内の各地で多くの行事が行われることになり、お花はその中の大きな一つだと思います。Rさんも言われた、水島は水島のみなど祭り、玉島は玉島の祭り、児島にもある。これを1つにというお話をされたんですが、私の意見では、むしろそれぞれの地区で、色々あったほうがいいのではと考えます。それぞれの地区の個性。玉島だったら玉島の昔の港町の祭り、児島だったら普通の祭りやと違ってせんい祭り、まったく同じ物だったら、市も補助金を出すのが難しいかと思いますが、今は違って、それぞれの特色が随分あるので、祭りを地域の皆さんで盛り上げていただきたいですし、個性を伸ばしてもらいたいということで、ご支援を申し上げているのですが。

その中の市全体で出来るものがあれば、各地区から共通のものについて、皆さんがよっていただいて、盛り上げていただければなというふうに思います。ありがとうございます。

時間もちょうどいい頃になってきたんですが、庄の祭りについて、庄の踊りをご披露いただけると嬉しいなど、・・・よろしいですか。

《参加者 S》

今日、このような集まりで庄の話をとられれば、これはふれあい庄音頭しかないと個人的に思っています。それで、ぜひ踊りを踊らしてほしいとお願いしましたら、どうぞということで、こういう踊りがあるということをご皆さんに知っていただけたらと思います。ふれあい庄音頭というのは、約5年前に庄地区小学校地域活動促進協議会の20周年記念の事業で作ったものです。歌詞を作ってくれたのが、当時庄小学校の教頭先生で、作曲を東京のプロの方をお願いしたんです。踊りは、下津井の踊りの先生にお願いして作っていただきました。

今は、幼稚園の運動会で踊っていただいたりしているのですが、まだ知らない人が多いと思いますので、是非見ていただきたいなど。若い者から年寄りまですごいメンバーで踊るので、見たらドキッとすと思えます。誰でも踊れるというのがふれあい庄音頭です。

♪～〔ふれあい庄音頭〕～♪

この庄音頭の歌詞は、市長さんにお渡ししたんですけど、私はとっても好きなんです。もし気になる方がいらっしゃいましたら、公民館へ申し出てください。

それと今日ここに飾ってあります、素敵なお花は庄公民館で「子どもの活け花」という講座を担当してくださっている先生が、この日のために活けてくださいました。お花がちよっとあることで心が和むと思います、とてもうれしかったです。

《参加者 T》

私のお弟子さんでこちらの公民館で勉強しています江本さんが産経新聞社の「書のアート展」で文部科学大臣賞を受賞いたしました。

日本の四大新聞ですが、この四大新聞にこのように全国版、東京に出されている新聞に大きく紹介されまして、テレビで拝見してみましたら、市長も桃とマスカットの販売を東京で、倉敷をアピールなさっていたんですが、私も倉敷を全国的にペン習字のほうで名を広めております。

日本ペン習字研究会「書のアート展」で、全国1位。私の先生が全国団体優勝。30年間1位を続けまして、私は2位を去年いただきました。倉敷にペン習字ありと、本当に有名になっておりますので、皆さんに知っていただいて。また、私がお願いしたいのは倉敷をアピールして全国的にして、市長さんがちょっとお知らせするというコーナーがあればいいと考えております。

64歳からペン習字を始めまして、今10年一度も休まずにいまして、継続は力なりという、そのことを皆さんにアピールして。4歳から80歳までの方にペン習字にガラスを使った図柄をプラスして、このカラーを添えて、会の皆さんに楽しんでもらっています。男性の会員さん、一人でもすぐにできますので、よろしかったらおいでください。スポンジを使って、手作りです。技術がいらぬ、とても簡単です。

それから、玉島テレビで倉敷の広報のことが随分出ておりまして、非常にありがたいと思います。

《市長》

テレビ版の広報くらしきですね。しっかりPRするようにします。ありがとうございます。

私も市民ふれあいトーク8回目ですが、発表があったのは初めてです。ありがとうございます。今日、一時間半という夕方お忙しい時間で、皆さんからいろいろ教えていただいて、また発表もしていただいて、ますます庄は素晴らしい地域だと思いました。

この魅力を、外にも発信できるように。そして、住まいの皆さんにも地域の皆さんにも分かっていたらいいようにこれからも一緒にやっていきたいと思っています。

今日は本当に、長時間にわたりましてありがとうございます。感謝申し上げます。

以上。

(※注1)

八区の倉庫とは、市内に分散して保管されていた、農具や民具をはじめとする民俗資料を一括して収蔵するため、平成9年度に建設された「倉敷市民俗資料収蔵庫」のことです。したがって、楯築遺跡をはじめ、庄地区の遺跡から出土した土器等の遺物は収蔵されていません。

民俗資料収蔵庫は、鉄骨造り2階建て、延べ床面積680㎡で、資料整理室・収蔵室・会議室・写真室などがありますが、「収蔵庫」のため、展示・公開する「展示室」はなく、常駐する職員もいません。

(※注2)

循環バスの実施期間は「約2ヶ月」が正しい。